

「CIT Brains」世界一



'21/'22 ロボカップ・バーチャルサッカー



④ ロボカップ・サッカーのバーチャル画面(左側が本学ロボット)
⑤ 自律サッカーロボットの実機を前にCIT Brains チーム

未ロボ生ら29人

本学の未来ロボティクス学科を主体に有志で組織するヒューマノイドロボット開発チーム「CIT Brains」(29人)が、2021年12月19日から22年4月17日まで約4カ月間、オンラインで開かれた「RoboCup Humanoid League Virtual Season (ロボカップ・ヒューマノイドリーグ・バーチャルシーズン) 2021/22」で見事、優勝を果たした。

サッカーの現実の動きを模倣してコンピュータ上で自動的にサッカーを行うバーチャルでの世界大会。特に認識や行動決定に関して、人工知能(AI)を含めてどれだけ優れたソフトウェアを開発するかが勝負の分かれ目となった。CIT Brainsは林原靖男・未来ロボティクス学科教授の指導の下、入江清・未来ロボット技術研究センター(fuROR) 主席研究員のアドバイスを得て、サッカーをプレーする人工知能を研究・開発するという困難な課題に取り組み、「世界一」という栄冠を手にした。

試合は、開発が間に合わなかったり、途中棄権したチームもあり、結果的に世界の7チーム(ドイツ2チームと日本、ブラジル、イラン、オーストラリア、カナダ各1チーム)で、まず総当たり戦。その勝ち点を基にトーナメント戦が行われた。CIT Brainsは総当たりの戦を1位で通過、準決勝は6-1でPRC Berlin

を破り、決勝はオランダのチームと対戦、4-2で勝利した。ロボカップは「2050年までにサッカーW杯チャンピオンに勝つ自律型のヒューマノイドロボットを作る」という目標を掲げて1992年に国際委員会が発足。97年に名古屋で第1回世界大会を開いて以来、毎年世界各国で開かれてきた。しかし、コロナ禍の影響で一昨年、昨年と実機のロボットを使っていた世界大会が中止となった。その代わり、コンピュータの中で現実を模倣するバーチャルでの開催を国際委員会が模索。昨年6月に続いて、今回も、オンラインでのシミュレーション競技の形態で世界大会が開かれた。

今回の優勝にチームリーダーの神戸隼さん(未来ロボティクス学科4年)は「試合が行われる



令和4年5月15日、千葉工業大学は80周年を迎えました

NEWS CIT

2022 5.15

ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 大矢画伯に卒業証書授与/ブチスポット火山からプレート構造を新提示/国際ロボ展に鈴木上席研究員が参加/本学広告が優秀賞/大学案内23年版が完成
- 3面 令和4年度予算案を承認
- 4面 80周年に学食チケットサービス/「ロケガ」高校生募集/新任紹介

林原教授ら指導

■ CIT Brainsメンバー 戦略開発 桑野雅久(大学院1年)、神戸隼(学部4年)、西尾唯右吾、小川晴生(同3年)、松山裕作、保科瞬、長谷川拓輝、茂郁良(同2年)▽画像処理 佐藤暖、横尾陸(同4年)▽キックモーション(機械学習で動きを最適化) 野口裕貴(同▽歩行制御(高速な歩行を実現) 井上颯、三浦優太(同▽ロボットモデルの作成(実験で動力学パラメータを導出) 久保寺真仁、川鍋清志郎(同▽運営との交渉) 森圭汰(同3年)▽開発補助 松本康希(大学院2年)、塩島諒子(同1年)、新井亮大、岩澤尚樹、茂松勇毅、馬頭利子(学部3年)、長峰拓也、月野賢汰、相場裕斗、関取泉咲、宮脇海斗、藤崎賢蔵、花川主税(同2年)

という輝かしい実績がある。バーチャルで行われた昨年は、ロボットのソフトウェアの優秀さを競うヒューマノイドリーグ・ベストロボットモデル賞部門で2位に入賞した。

フィールドに大きな変更がありました。今まではシミュレーター内の光源の位置が固定され昼のような環境でしたが、今大会ではまぶしい昼間や薄暗い夕方など、いろんな環境が毎試合ごとにランダムに設定されるようになりました。そのため、どんなフィールドにも対応できるように人工知能の認識を改良し、大きな変更にも対応できたことが勝因と考えています。

林原教授は「昨年6月のロボカップ21で問題と

なった4の課題に取り組み、地道に改善していきましした。画像処理の進化が著しかったという。今後の目標を、神戸さんは「今年7月、タイのバンコクで開かれる実機での世界大会で優勝することを目標に、ロボットのハードとソフトウェアの両面で開発していきたい」と語っている。



CIT Brainsのウェブサイトはこちら

大矢画伯に卒業証書授与

■ 自主退学し スペインで活躍

本学電子工学科(当時)に在籍後、スペインに留学し、現地で芸術家として活躍している大矢



授与式は津田沼キャンパス1号館20階の展望フロアで瀬戸熊修理長、松井孝典学長が出席して行われ、大矢氏は緊張の面持ちで松井学長から証書を受け取った。

時のローマ法王に謁見し、作品を献上した。今回の卒業証書は千葉工大特別卒業認定制度に基づき、芸術界での活躍を称えて贈るもので、本学に3年以上在籍▽卒業に必要な単位中100単元以上を取得▽学長の推薦がある者、特に社会的貢献に顕著である者——の資格を満たしている」と判断された。

国際ロボ展

furo 関連技術を展示

■ 鈴木上席研究員が参加

世界最大規模のロボット専門展「2022 国際ロボット展」が3月9〜12日、東京都江東区の東京ビッグサイトで開催された。新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の「次世代人工知能・ロボットの中期となるインテグレート技術開発」展示ブースでは、鈴木太郎・未来ロボット



国際ロボット展で説明する鈴木上席研究員(手前左)

技術研究センター(furo)上席研究員らが、ロボット技術と人工知能を活用した地方中小建設現場の土砂運搬の自動化に関する研究開発を展示した。

東北大と本学、(株)佐藤工務店が進めており、既存の建設機械(ダンプトラック)に知能・ロボットシステムを後付けして遠隔化・ロボット化するもの。中小事業者が多い地方の建設土木現場の人手不足や高齢化を解決するため、企業と連携して事業化を目指している。

会期中の11日は、鈴木上席研究員も説明員として

プチスポット火山からプレート構造を新提示

■ 町田上席研究員ら



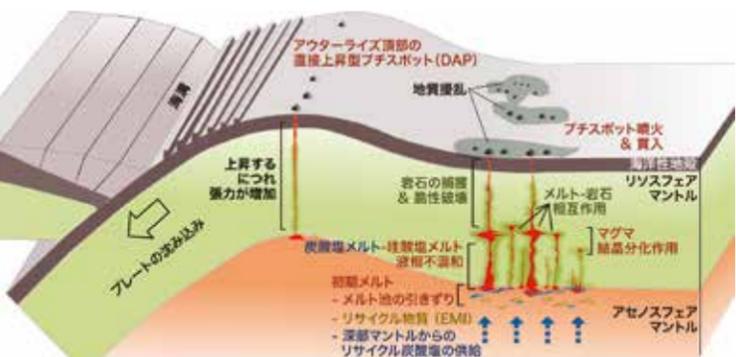
次世代海洋資源研究センター(ORCeNG)の町田嗣樹・上席研究員は写真と東北大東北アジア研究センターの平野直人准教授は、太平洋プ

プレートの深海底にある小さな海底火山(プチスポット)を調べ、深部マントルへ沈み込む前のプレート構造を新たに提示した。成果は英ネイチャー・リサーチのオープンアクセス誌コミュニケーションズ・アース・アンド・エンバイロメントに掲載された。

地震や火山は、地球の外側のプレート(リンス

下方のアセノスフェアのマ

一方、プチスポット火山は2006年、日本海溝付近で発見された新タイプの火山。深海のプレ



グマが染み出すように噴出する。プチスポットか

巻き込まれた深部マントルの岩石に関するこれまで

ら得られる岩石は、アセノスフェアやプレートの性質、プレートテクトニクス理論への理解を深める手掛かりになり、最近、マリアナ海溝、トンガ海溝、スダ海溝、チリ海溝などでもプチスポットが発見されている。

町田上席研究員と平野准教授は、プチスポットマグマと周辺の地質、プチスポットマグマに

さらに、噴火した高温の珪酸塩マグマが、プレ

■ 迷ったら、美しいほうへ



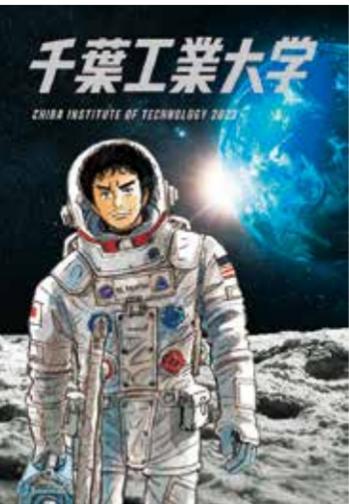
新聞広告賞で91年もの歴史を持つ毎日広告デザイン賞(毎日新聞社主催、経済産業省後援)の第89回入賞作品・広告主参加作品の中で、本学のブランド向上を図る広告「迷ったら、美しいほうへ」(15段カラー)いほうへ」(15段カラー)CD・山中俊治、AD・岡本健、D・山中港、C・角尾舞、P・西部裕介の各氏が制作し写真)が、優秀賞

本学広告 優秀賞受賞

3作品の1つに選ばれた。未来ロボット技術研究センター(furo)が開発した次世代の乗り物で、国際デザイン賞コンテスト(イタリアで開催)で世界最高賞を獲得した「Langue(カ

で、開発を担当している勢推進などの説明にあたり、約7千人が来場した。今回は新型コロナウイルスの影響が、国内中心の開催となった。

2023年 大学案内が完成



千葉工大の最新情報を掲載した「2023 大学案内」が出来上がった。写真、漫画、アニメで活躍する「宇宙兄弟」と本

学がコラボして8年目。今回も、夢に向かって挑戦する大切さを伝えた。い、とインパクトのある表紙が描かれた。

次世代へ向けた研究や学生プロジェクトを追究とともに▽学術紹介▽教育内容▽施設▽キャンパスライフ案内▽クラブの紹介——と本学の魅力満載の内容となっている。今年度は、次々と立ち上がる研究センターについて詳細にプロジェクトの内容を掲載した別冊「最先端への追及へ」も作成した。いずれも、希望者に無料で配布する。

千葉工業大学 令和4年度予算

資金収支

(単位：円)

収入の部			
科目	令和4年度予算	令和3年度予算	差異
学生生徒等納付金収入	14,700,000,000	14,554,900,000	145,100,000
手数料収入	275,000,000	275,000,000	0
寄付金収入	100,000,000	191,400,000	△ 91,400,000
補助金収入	1,002,400,000	1,084,400,000	△ 82,000,000
資産売却収入	0	232,300,000	△ 232,300,000
付随事業・収益事業収入	650,000,000	689,000,000	△ 39,000,000
受取利息・配当金収入	380,000,000	485,000,000	△ 105,000,000
雑収入	230,000,000	656,900,000	△ 426,900,000
前受金収入	5,110,000,000	5,110,000,000	0
その他の収入	3,009,000,000	9,142,700,000	△ 6,133,700,000
資金収入調整勘定	△ 5,360,000,000	△ 6,264,900,000	904,900,000
前年度繰越支払資金	14,337,960,000	12,610,200,000	1,727,760,000
収入の部合計	34,434,360,000	38,766,900,000	△ 4,332,540,000

支出の部			
科目	令和4年度予算	令和3年度予算	差異
人件費支出	7,241,200,000	7,664,600,000	△ 423,400,000
教育研究経費支出	4,907,400,000	4,345,900,000	561,500,000
管理経費支出	1,394,400,000	1,139,340,000	255,060,000
施設関係支出	715,100,000	1,169,100,000	△ 454,000,000
設備関係支出	654,100,000	701,400,000	△ 47,300,000
資産運用支出	7,000,000	6,341,600,000	△ 6,334,600,000
その他の支出	2,850,000,000	3,126,000,000	△ 276,000,000
[予備費]	300,000,000	300,000,000	0
資金支出調整勘定	△ 400,000,000	△ 359,000,000	△ 41,000,000
翌年度繰越支払資金	16,765,160,000	14,337,960,000	2,427,200,000
支出の部合計	34,434,360,000	38,766,900,000	△ 4,332,540,000

事業活動収支

(単位：円)

事業活動収入の部			
科目	令和4年度予算	令和3年度予算	差異
学生生徒等納付金	14,700,000,000	14,554,900,000	145,100,000
手数料	275,000,000	275,000,000	0
寄付金	100,000,000	191,400,000	△ 91,400,000
経常費等補助金	952,400,000	1,074,900,000	△ 122,500,000
付随事業収入	650,000,000	689,000,000	△ 39,000,000
雑収入	230,000,000	448,100,000	△ 218,100,000
教育活動収入計	16,907,400,000	17,233,300,000	△ 325,900,000

事業活動支出の部			
科目	令和4年度予算	令和3年度予算	差異
人件費	7,241,200,000	7,664,600,000	△ 423,400,000
教育研究経費	4,907,400,000	4,345,900,000	561,500,000
(内、減価償却額)	2,519,900,000	2,552,400,000	△ 32,500,000
管理経費	1,394,400,000	1,139,340,000	255,060,000
(内、減価償却額)	636,800,000	632,300,000	4,500,000
徴収不能額等	0	1,000,000	△ 1,000,000
教育活動支出計	16,699,700,000	16,335,500,000	364,200,000
教育活動収支差額	207,700,000	897,800,000	△ 690,100,000

教育活動外収支差額	380,000,000	693,760,000	△ 313,760,000
経常収支差額	587,700,000	1,591,560,000	△ 1,003,860,000
特別収支差額	48,000,000	307,000,000	△ 259,000,000
基本金組入前当年度収支差額(予備費含む)	635,700,000	1,898,560,000	△ 1,262,860,000
基本金組入額合計	0	△ 21,200,000	21,200,000
当年度収支差額	635,700,000	1,877,360,000	△ 1,241,660,000
前年度繰越収支差額	△ 3,892,140,000	△ 5,469,500,000	1,577,360,000
基本金取崩額	25,000,000	0	25,000,000
翌年度繰越収支差額	△ 3,231,440,000	△ 3,592,140,000	360,700,000

事業活動収入計	17,337,400,000	18,238,900,000	△ 901,500,000
事業活動支出計	16,701,700,000	16,340,340,000	361,360,000

基本金組入前当年度収支差額(予備費含む)	635,700,000	1,898,560,000	△ 1,262,860,000
基本金組入額合計	0	△ 21,200,000	21,200,000
当年度収支差額	635,700,000	1,877,360,000	△ 1,241,660,000
前年度繰越収支差額	△ 3,892,140,000	△ 5,469,500,000	1,577,360,000
基本金取崩額	25,000,000	0	25,000,000
翌年度繰越収支差額	△ 3,231,440,000	△ 3,592,140,000	360,700,000

(参考) 事業活動収入計 17,337,400,000 18,238,900,000 △ 901,500,000
事業活動支出計 16,701,700,000 16,340,340,000 361,360,000

令和4年度予算案を承認

3月28日、東京カーデナルパレスで開かれた本学理事会・評議員会で、令和4年度予算案が承認された。

策の長期化、補助金の傾斜配分など、引き続き厳しい要因が見込まれる。本学では、令和4(2022)年5月15日に創立80周年を迎えるが、創立100年に向けて、今後さまざまな改革を積極的に実行していく。

高等教育を取り巻く環境

高等教育機関においては、新型コロナウイルス感染症拡大防止が求められるなか、遠隔授業の質的向上や対面授業と遠隔授業の両立による学生満足度の向上など教育研究活動の充実を図ってきた。

経営を取り巻く環境は、コロナ禍の影響に加えて、18歳人口の減少、定員管理厳格化の継続、日銀によるマイナス金利政策の長期化、補助金の傾斜配分など、引き続き厳しい要因が見込まれる。本学では、令和4(2022)年5月15日に創立80周年を迎えるが、創立100年に向けて、今後さまざまな改革を積極的に実行していく。

令和4年度においても学生たちに充実した学習環境を与えるべく、新型コロナウイルスの職域接種などさまざまな感染対策を講じたうえで、対面授業を中心とした教育・研究に力を注いでいく。

未来ロボット技術研究センターでは「[Gancho] がイタリアの「A. Internatiional Design Award & Competition 2020-21」の車両・移動性・輸送デザイン部門で最高賞のプラチナ賞を受賞したほか、ドイツの「Design Award 2021」でもプロフェッショナル・コンテスト部門で「Design Award」を受賞した。惑星探査研究センターでは、令和3年11月に打ち上げられた超小型衛星2号機「SERIES」がダスト観測を開始し今後5年程度の科学観測を予定しているほか、科学観測を目的として開発中の小型ハイブリッドロケットが令和4年度中に2回の洋上発射実験を予定しており、軽

量化した成層圏微生物採取のための捕集装置の搭載を目指している。また、元MITメディアラボ所長の伊藤穰一氏を所長として、令和3年11月に開設した「変革センター」では、社会のあらゆる分野の技術や文化の研究者が集まり、今起きているさまざまな問題を解決するための技術的なプラットフォームや文化的なアウトプットを想像し、デザイン・設計し、構築することを目的に、国内外の機関と連携して社会のデジタル化や宇宙、気候、公衆衛生と医学など多岐にわたる研究開発に取り組んでいく。

さらに、地球学研究センター、人工知能・ソフトウェア技術研究センターや次世代海洋資源研究センターなどの成果によって先端研究の領域はさらに拡がりを見せている。本学の一般入試志願者は引き続き増加傾向であり、令和4年度入試試験は過去最多の志願者数を達成し、志願者総数では全国2位となり、2年連続のベスト3入りを果たし、7年連続のベスト10入りとなった。

1 教育・研究
本学は、建学の精神を実現するために、「教育目標」並びに「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者受け入れの方針」を定め、ファカルティ・ディベロップメント(授業内容向上の取り組み)や外部研究費獲得のための施策等を強力に推し進め、教育及び研究の改革・改善に取り組んできた。また自己点検及び第三者評価等を通じて、3つのポリシーの一貫性について継続的に評価を行い、更にポリシーに沿った教育研究活動が行われているかどうかの評価を行い、必要場合は見直しや新たな計画の策定を行うことにより、全学的な体制の下でPDCAサイクルを機能させている。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、対面式授業を中心に、一部オンライン授業を取り入れる授業展開となった。対面式授業

を実施するにあたっては、感染防止対策として、入構時の検温、手指の消毒、衣服の消毒、教室・研究室の定期的な換気、室内消毒など全学を挙げて実施している。一部オンラインを取り入れた授業運営では、より教育効果を高められる新たな授業形態にも挑戦して、文部科学省からも好事例として紹介された。

令和4年度は、このような取り組みから得た貴重なノウハウや知見をさらに磨き上げ、対面形式の授業でもオンライン形式(ライブ配信形式、オンデマンド形式)の有用性を最大限に生かしながら、新たな時代に向けた本学としての独自の授業形態の確立を目指す。また、令和3年度から

これまで大学として重点的に取り組んできた留年者や退学者の抑制策については、追加的な補習授業の実施や再試験制度及び特別評価制度の導入により、授業の到達目標や評価基準を維持しつつ、留年者及び退学者の減少に効果をあげ、令和3年度の退学者は200人を大きく下回った。

地域社会との連携については、包括連携協定を締結している県内17の市町等を中心に、今後も協力関係を維持、推進していく。研究及び産官学連携については、新たな研

令和4年度予算の概要

- I【教育活動収入】 169.1億円(前年度172.3億円) 前年度比3.3億円減)
- II【教育活動支出】 167.0億円(前年度163.4億円) 前年度比3.6億円増)
- III【教育活動外収支】 教育活動外収入は受取利息・配当金で3.8億円を見込む(前年度比1.1億円減)。教育活動外支出の予定はない。
- IV【特別収支】 特別収入は施設設備補助金を見込み0.5億円を計上した。特別支出の予定はほとんどない。
- V【基本金組入前当年度収支差額】 6.4億円
- VI【基本金組入額】 △0.3億円(前年度0.2億円) 前年度比0.5億円減)
- VII【収支差額】 以上の結果、当年度収支差額は6.4億円の収支超過、前年度繰越収支差額は38.9億円のマイナスであるので、翌年度繰越収支差額は32.3億円の出超過となる予算である。

- ①建物 17.0億円
- ②構築物 △10.8億円
- ③教育研究用機器備品 5.7億円
- ④管理用機器備品 △7.6億円
- ⑤図書・車両他 0.2億円
- ⑥ソフトウェア △0.2億円
- ⑦除却額 △0.1億円
- ⑧除却額 △0.2億円
- ⑨除却額 △0.2億円
- ⑩除却額 △0.2億円
- ⑪除却額 △0.2億円
- ⑫除却額 △0.2億円
- ⑬除却額 △0.2億円
- ⑭除却額 △0.2億円
- ⑮除却額 △0.2億円
- ⑯除却額 △0.2億円
- ⑰除却額 △0.2億円
- ⑱除却額 △0.2億円
- ⑲除却額 △0.2億円
- ⑳除却額 △0.2億円
- ㉑除却額 △0.2億円
- ㉒除却額 △0.2億円
- ㉓除却額 △0.2億円
- ㉔除却額 △0.2億円
- ㉕除却額 △0.2億円
- ㉖除却額 △0.2億円
- ㉗除却額 △0.2億円
- ㉘除却額 △0.2億円
- ㉙除却額 △0.2億円
- ㉚除却額 △0.2億円
- ㉛除却額 △0.2億円
- ㉜除却額 △0.2億円
- ㉝除却額 △0.2億円
- ㉞除却額 △0.2億円
- ㉟除却額 △0.2億円
- ㊱除却額 △0.2億円
- ㊲除却額 △0.2億円
- ㊳除却額 △0.2億円
- ㊴除却額 △0.2億円
- ㊵除却額 △0.2億円
- ㊶除却額 △0.2億円
- ㊷除却額 △0.2億円
- ㊸除却額 △0.2億円
- ㊹除却額 △0.2億円
- ㊺除却額 △0.2億円

80周年 学食サプライズ



トレー裏にミールチケット

創立80周年記念日(5月15日)を前に、5月11~13日の水・木・金曜日、学生食堂で「80周年記念サービス」として

ミールチケット(食券)を、1日あたり津田沼食堂で80人、新習志野食堂では100人(3日間で合計540人)にプレゼントした。



「ミールチケットは、両キャンパス食堂の食事配膳トレーの裏に添付されるサプライズ方式で、学生たちはトレーを手にするたびに「ない」「はずれだ」「ええ!」あ

った!」と、楽しんだ。食堂運営のため設立された会社「CITサービ

ス」では現在、定番のカレーや定食を安価で提供しており、メニューも豊

※コロナ対策のため現在、食堂では座席数を縮小して営業しています。消費や黙食など、皆様には今後とも協力をお願いします。

「レジリエンス」という言葉を最近知りました。本来は、物理学で用いられたようですが、心理学、生態学、医学、経済学においても幅広く多用される言葉として認知されました。これは一般的に「復元力」、「回復力」、「弾力」などと訳され、近年は特に「困難な

状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力」という心理学的な意味で使われるケースが増えているそうです。2020年に打ち上げられた民間宇宙船「クルードラゴン」の機体が、搭乗した宇宙飛行士4人によって「レジリエンス」と名づけられたことも話題となりました。さらに「レジリエンス」の概念は、個人から企業や行政などの組織、システムにいたるまで、社会

のあらゆるレベルにおいて備えておくべき危機管理能力としても注目を集めているそうです。結びに、パリ市紋章に刻まれたラテン語「FLORES SUGGERERE」すなわち「たゆたえど沈まず」という標語を添えて、自由で多様な学びの場を構成するレジリエントな学生、教職員、保護者の皆様に心より敬意を表したいと思います。

PPA会長 石上 藤吾

一緒に打ち上げよう

「ロケガ」高校生募集

人気講座「ロケットガール&ボーイ養成講座(通称ロケガ)」2022

6月5日のキックオフから、新習志野キャンパスでのモデルロケット打ち上げや燃焼実験を経て、夏休み期間中には集中して制作に取り掛かり

ハイブリッドロケットの設計・製作から、その打ち上げに至るまで、全て高校生自身の手で実現し、プロジェクトマネージメントや、ものづくりの

今年も多数の応募があり、「実際に自分でロケットのエンジンを作ってみたい」「仲間と一つのものを作る楽しさを味わいたい」「講座を通して自分が出ること、逆に足りないものを見つけたい」と意欲的だ。

10月29、30日、千葉県夷隅郡御宿町での打ち上げを目指す。

教員

新任紹介 (敬称略)

小島 磨 教授 (電気電子工学科)

林 真一郎 助教 (電気電子工学科)

野村 由実 助教 (教育センター・創造工学部)

工藤 翔慈 助教 (応用化学科)

新谷 幸弘 教授 (経営情報科学科)

西松 研 教授 (経営情報科学科)

松田 泰明 准教授 (応用化学科)

藤井 那佳 (就職・進路支援部 事務職員)

柳田 拓也 (教学センター・津田沼学生担当 事務職員)

工藤 翔慈 助教 (応用化学科)

中村 達 助教 (教育センター・社会システム科学部)

高松 佑介 助教 (教育センター・社会システム科学部)

松田 泰明 准教授 (応用化学科)

野村 由実 助教 (教育センター・創造工学部)

工藤 翔慈 助教 (応用化学科)

新谷 幸弘 教授 (経営情報科学科)

三角 晋介 (施設部・電機室 技術員)

松本 和久 (総務部・津田沼警備室 警備員)

苅田 智郎 (教学センター・新習志野警備室 警備員)

笠井 伸好 (施設部・新習志野 用務員)

新谷 幸弘 教授 (経営情報科学科)

職員

PPA



「レジリエンス」という言葉を最近知りました。本来は、物理学で用いられたようですが、心理学、生態学、医学、経済学においても幅広く多用される言葉として認知されました。これは一般的に「復元力」、「回復力」、「弾力」などと訳され、近年は特に「困難な

状況にもかかわらず、しなやかに適応して生き延びる力」という心理学的な意味で使われるケースが増えているそうです。2020年に打ち上げられた民間宇宙船「クルードラゴン」の機体が、搭乗した宇宙飛行士4人によって「レジリエンス」と名づけられたことも話題となりました。さらに「レジリエンス」の概念は、個人から企業や行政などの組織、システムにいたるまで、社会

のあらゆるレベルにおいて備えておくべき危機管理能力としても注目を集めているそうです。結びに、パリ市紋章に刻まれたラテン語「FLORES SUGGERERE」すなわち「たゆたえど沈まず」という標語を添えて、自由で多様な学びの場を構成するレジリエントな学生、教職員、保護者の皆様に心より敬意を表したいと思います。

PPA会長 石上 藤吾

四季雑感



調べものがあったって、四月末日に外房線ですみ市を訪ねた。ついでに少し足を延ばして、いすみ鉄道に乗り、大多喜町まで行った。大学一年生のときの課題で、大多喜町役場のスケッチというのがあり、懐かしさもあって、三十年近くぶりに再訪した。

駅から町役場までの道のりは、もっと遠かったように思うが、一瞬で着いた。スケッチするのに座った場所、同時に居合わせた同級生の顔など、枝葉の記憶だけが何故か鮮明に思い返された。帰路は期せずして、土日・祝日に一日一本だけ運転している急行列車に乗ることとなった。単に停車駅を飛ばすだけかと思いきや、旧国鉄時代の気動車で、車内では改札

駅では車窓からの駅弁購入。幼かった頃の昭和の旅の記憶に思いを馳せるひと時となった。中にはお猪口を持参して乗車し楽しそうに酒を酌み交わしている鉄道ファンもいた。それぞれが、当時は思い出しながら旅を楽しんでいた。これも新型コロナによる制限が解除されたからこそ。思いのほか充実の自学自習の日となった。

建築学科 望月 悦子

編集だより



高校時代の同級生と、久しぶりに地元で再会した。最後にあったのは15年ほど前か……。親友と呼べるほど近い友人は、高校時代、大学時代、勤務先での現在、それぞれで数人ほど。中でも高校時代の友人とは、地元御宿が観光地として

特に栄えていた時代で、実家である酒屋と民宿のアルバイトのため、住み込みで1カ月、寝食を共にしたつわもの達だ。今でこそ、なんとなく落ち着いた雲間気の海水浴場だが、遠い昔、夏の御宿は尋常じゃない数の観光客であふれていた。民宿では掃除に料理となく、何でもござれ。高校生ながら、キャベツの千切り

選手権で優勝できるほどの腕前にまで上達。慣れない方言に戸惑いながら、レジ打ちでも汗が出るという過酷な労働だったが、笑いしかなかった。当時を振り返り「本当に宝物のような時間だったね」と懐かしんだ。久しぶりに会った友人は、意外なほど変わって、いなくてホッとしたが、コントのように全員老眼鏡をかけていたのはどうしたもんかと……。入試広報課 大橋 慶子